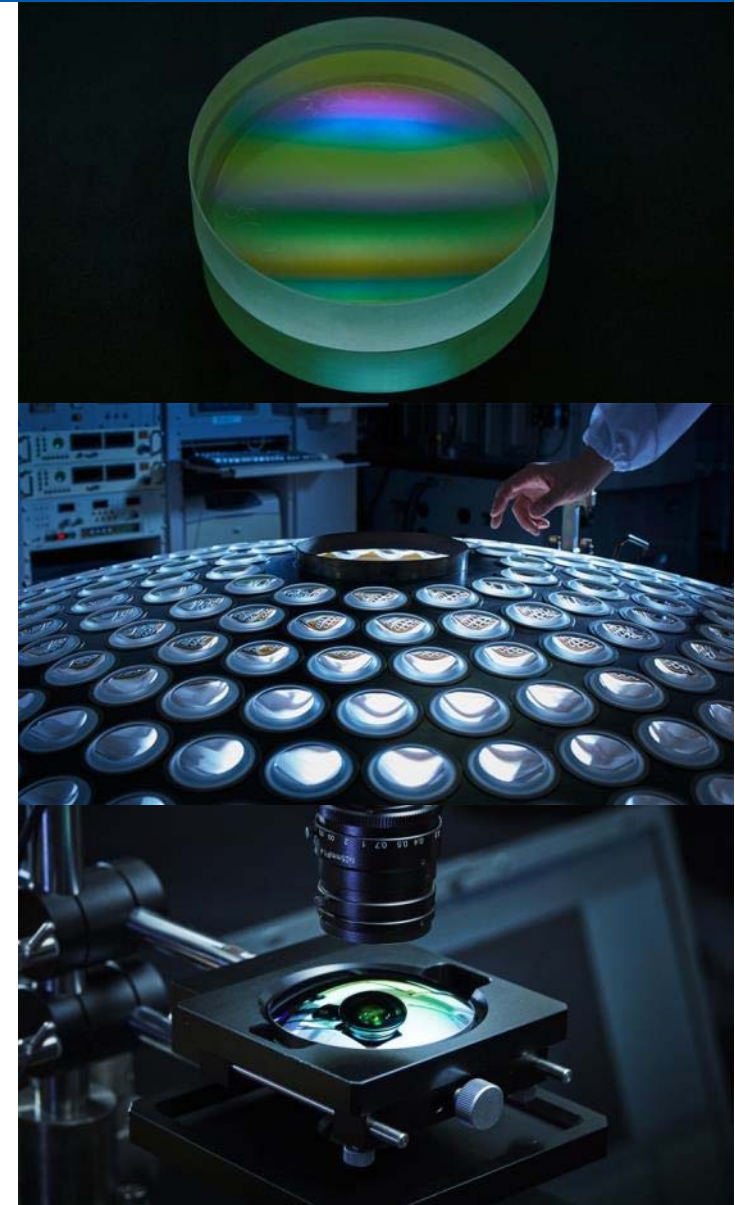


## 個人投資家さま向け説明会 タムロンの事業と成長戦略

2019年11月20日

株式会社タムロン（証券コード：7740）

取締役 大塚 博司



# 目次

---

## I.会社概要

1. 会社概要
2. ブランドメッセージ
3. タムロンの歴史
4. タムロンの強み
5. 販売拠点
6. 生産拠点
7. 事業別売上高構成比
8. セグメント別売上高の概要

## II.事業概要

1. 写真関連事業
2. レンズ関連事業
3. 特機関連事業

## III.業績動向

1. 中期経営計画
2. 2019年業績

## IV.ESGの取り組み

## V.配当政策

## VI.参考情報

1. 財政状況
2. 設備投資、減価償却費、研究開発費
3. キャッシュ・フロー
4. 主要経営指標

**TAMRON**

---

# I. 会社概要

**TAMRON**

# I -1 会社概要

商号	株式会社タムロン
創業	1950年11月1日
連結売上高	618億15百万円（2018年12月期）
株式上場	東京証券取引所 市場第一部
本社	埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
資本金	69億23百万円（2018年12月末）
代表者	代表取締役社長 鯨坂 司郎
決算期	12月末日
従業員数 (臨時従業員除く)	5,046名（連結）(2018年12月末)

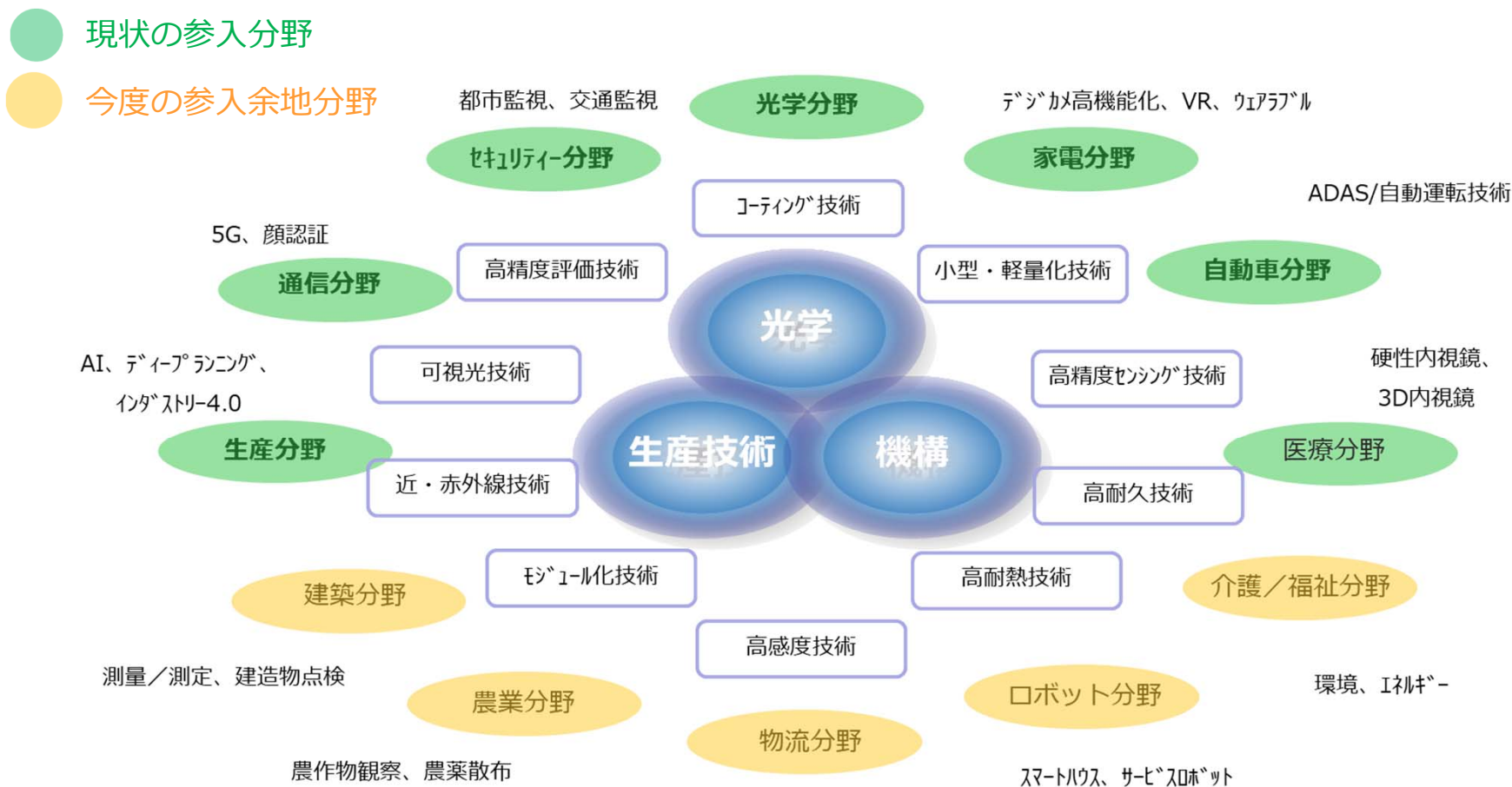


**TAMRON**

# I -2 「産業の眼を創造貢献するタムロン」

## ・ 込めた思い


産業のあらゆる分野において新しい光の可能性（産業の眼）を創造し「心豊かな社会」の実現に貢献していきたい




# I-3 タムロンの歴史

## 会社沿革

1950 埼玉県浦和市に 「泰成光学機器製作所」創業	1952 資本金250万円で 「泰成光学工業株式会社」設立	1958 「タムロン」ブランド を商標登録	1969 青森県に弘前工場建設	1970 「株式会社タムロン」 に社名変更	1979 米国に販社設立	1982 西ドイツに販社設立	1984 青森県に工場設立 (現：浪岡工場)	1986 青森県に 成形工場設立 (現：大鰐工場)	1995 中判カメラの製造、 販売会社 「プロニカ(株)」買収 (後に吸収合併)	1997 香港に販社設立	2000 フランスに 販社設立	2005 新金型工場を 竣工(本社)	2006 中国に販社設立	2012 ロシアに販社設立	2013 ベトナムに生産子会社設立	2015 インドに販社設立	2015 「(株)宏友興産」買収 (後に吸収合併)	2017 「東明技研(株)」買収
----------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------	--------------------	-----------------------------	-----------------	-------------------	------------------------------	------------------------------------	--	-----------------	-----------------------	--------------------------	-----------------	------------------	----------------------	------------------	---------------------------------	---------------------




創業メンバーの  
新井健之氏(右)



当時の浦和工場

**エピソード-社名の由来**

「タムロン」は、当社の光学技術の基礎を築いた田村右兵衛氏の姓が由来。商品名として世に出た後、創業20周年を機に会社名に。当時から技術者を大切にする社風。




田村右兵衛氏



## 製品沿革


1950 写真機・双眼鏡レンズの加工開始	1957 一眼レフカメラ用交換レンズ 「135mm F/4.5」完成	1966 レンズ原器、超精密レンズ、 プリズムの生産開始	1969 一眼レフカメラ用交換レンズ、 テレビ用レンズ、 電子複写機用レンズ等の 生産開始	1981 「6倍ズームビデオ カメラレンズ」 開発、生産開始	1983 一体型ビデオカメラ レンズ開発	1986 業界に先駆け、 CCTV用 バリフォーカル レンズ開発	1992 世界最小、最軽量の一 眼レフ用高倍率ズーム レンズ 「AF28-200mm(71D)」 発売	2000 645判レンジファインダー カメラ「RF645」発表	2006 携帯電話用 レンズ販売開始	2008 車載用レンズ 販売開始	2016 小型カメラ モジュール 販売開始	2017 ドローン用レンズ 販売開始
-------------------------	--	------------------------------------	---	---	----------------------------	--	--	---------------------------------------	--------------------------	------------------------	--------------------------------	--------------------------



Tマウントシステム

**エピソード-高倍率ズームの始まり**

「タバコの箱の大きさに」とくるりと丸めた方眼紙が原型。この製品を皮切りに、更に焦点距離の拡大、小型・軽量化、新機構搭載を次々に実現し、現在の「高倍率ズームのタムロン」の地位構築。



原型となった  
方眼紙  
※当時トップ  
のサインが



## I -4 タムロンの強み

- ・ 高倍率ズームのパイオニア  
⇒ 高倍率化、小型化、軽量化、高画質化と常に進化
  - ・ EISAアワード (※) 14年連続受賞をはじめ、国内外で高い評価
  - ・ レンズコーティングや手ぶれ補正機構など最先端の技術開発
- 世界最高を誇る技術力 (製品例：高倍率ズーム：B028)

18-400mm VC HLD  
(Model B028)



・ 世界最高倍率!  
約「22.2倍」

高倍率ズームとは

⇒ 広角から望遠まで  
1本のレンズで  
撮影可能



広角：18mm

(35mm 換算: 28mm相当)



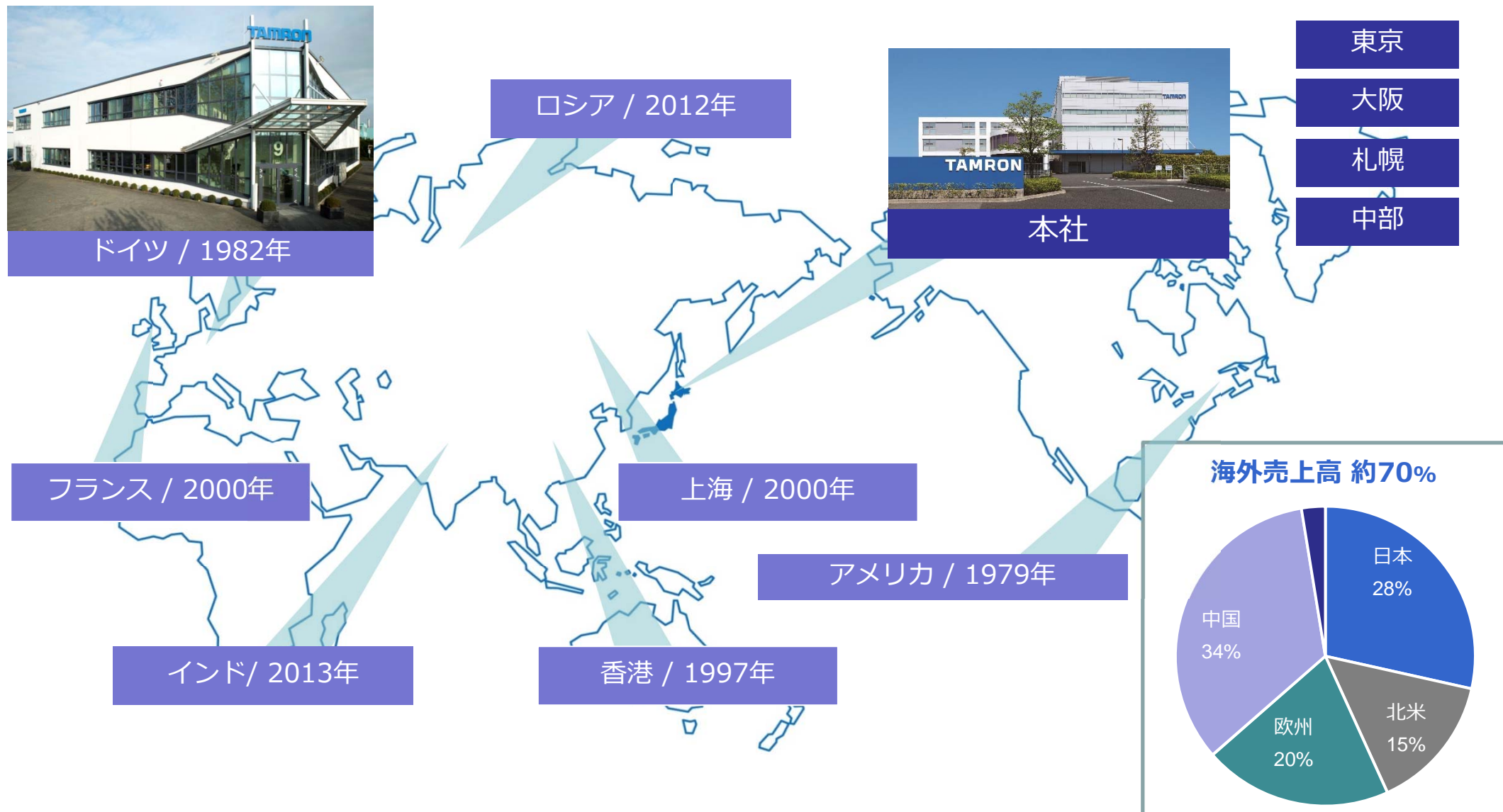
望遠：400mm

(35mm 換算: 620mm相当)

※EISAアワード：欧州の主要20ヶ国、約50の著名な写真等の専門誌の編集長と技術主幹で構成されるEISAが、年間で最優秀と認める各分野別製品に対して授ける賞

# I -5 販売拠点

海外拠点は世界に7拠点。当社製品は世界約70の国・地域で販売





# I -6 生産拠点

## 日本・中国・ベトナムでの世界3極生産体制

海外生産拠点：2  
量産工場

- レンズ研磨、金属加工、成形部品、組立まで一貫生産
- **2016年 開発部門設置**
- **従業員数：約3,100名** (臨時従業員含む)
- 生産品目：交換レンズ、DSC/VC用・ドローン用・車載用・監視用レンズ



- レンズ研磨、金属加工、成形部品、組立まで一貫生産
- 2013年7月 稼働
- **2017年 営業黒字化**
- **従業員数：約1,100名**
- **生産品目：交換レンズ、監視用レンズ**

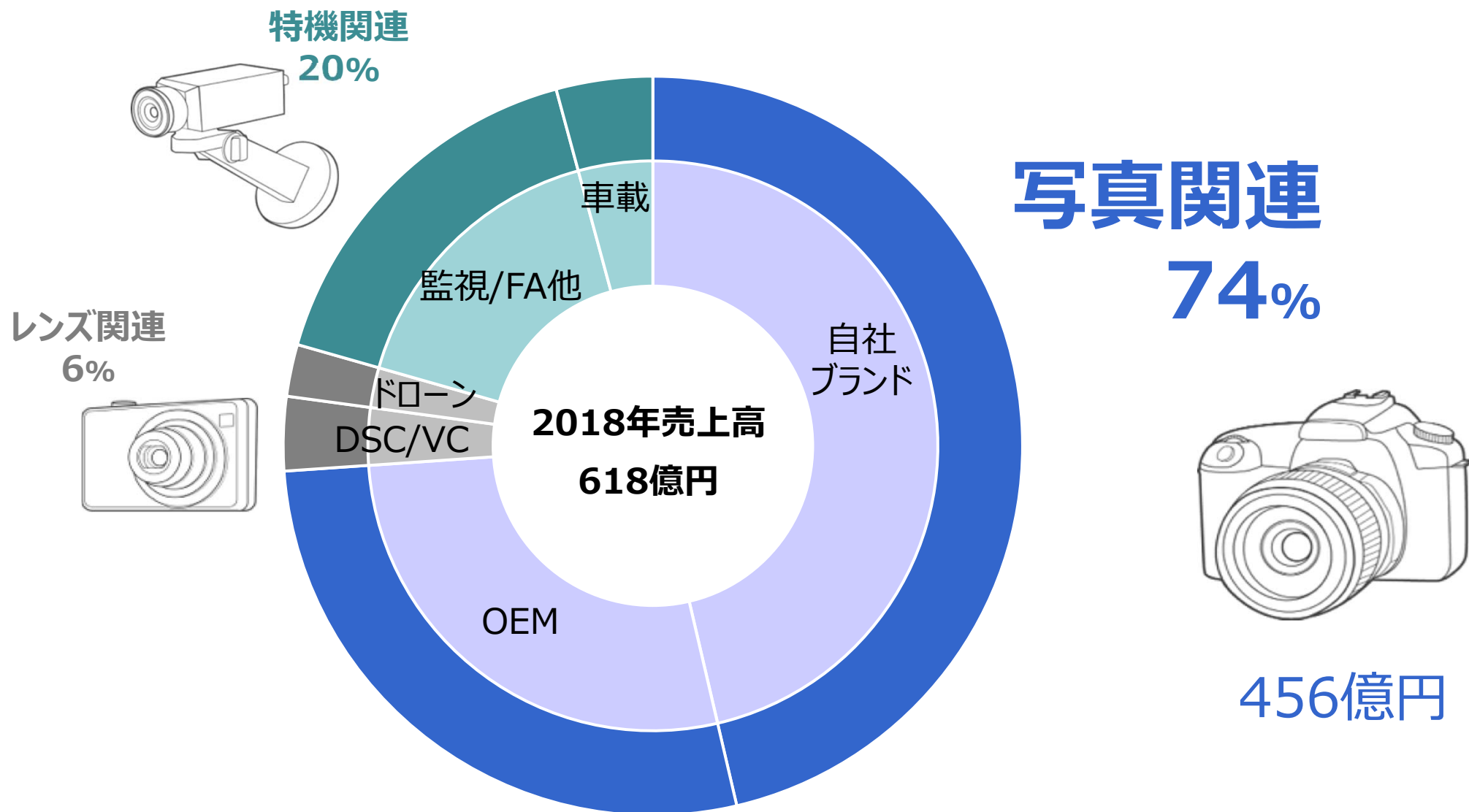
- 生産能力の拡大
- コスト対応力の強化
- 一極集中のリスク分散

国内生産拠点：3  
マザー工場



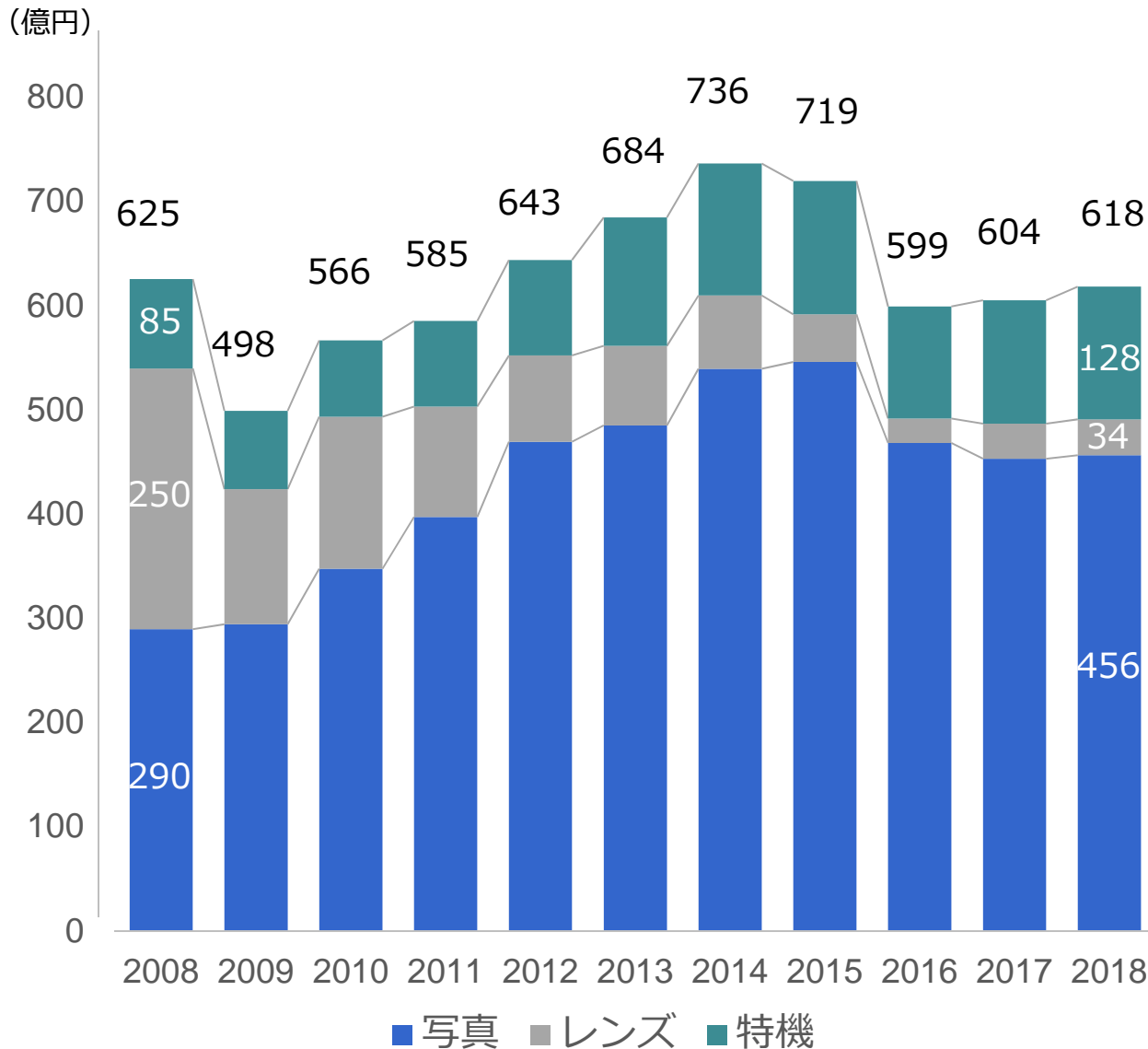
- レンズ研磨、GM (ガラスモールド)、金属加工、成形部品、組立
- **従業員数：約600名** (臨時従業員数含む)
- **生産品目：交換レンズ、監視/FA用レンズ、その他 (小ロット、高付加価値品)、原器**

# I -7 事業別売上高構成比 (2018年12月期)



**TAMRON**

# I -8 セグメント別連結売上高



## 2008年と現在の比較

レンズ関連

40% → 6%

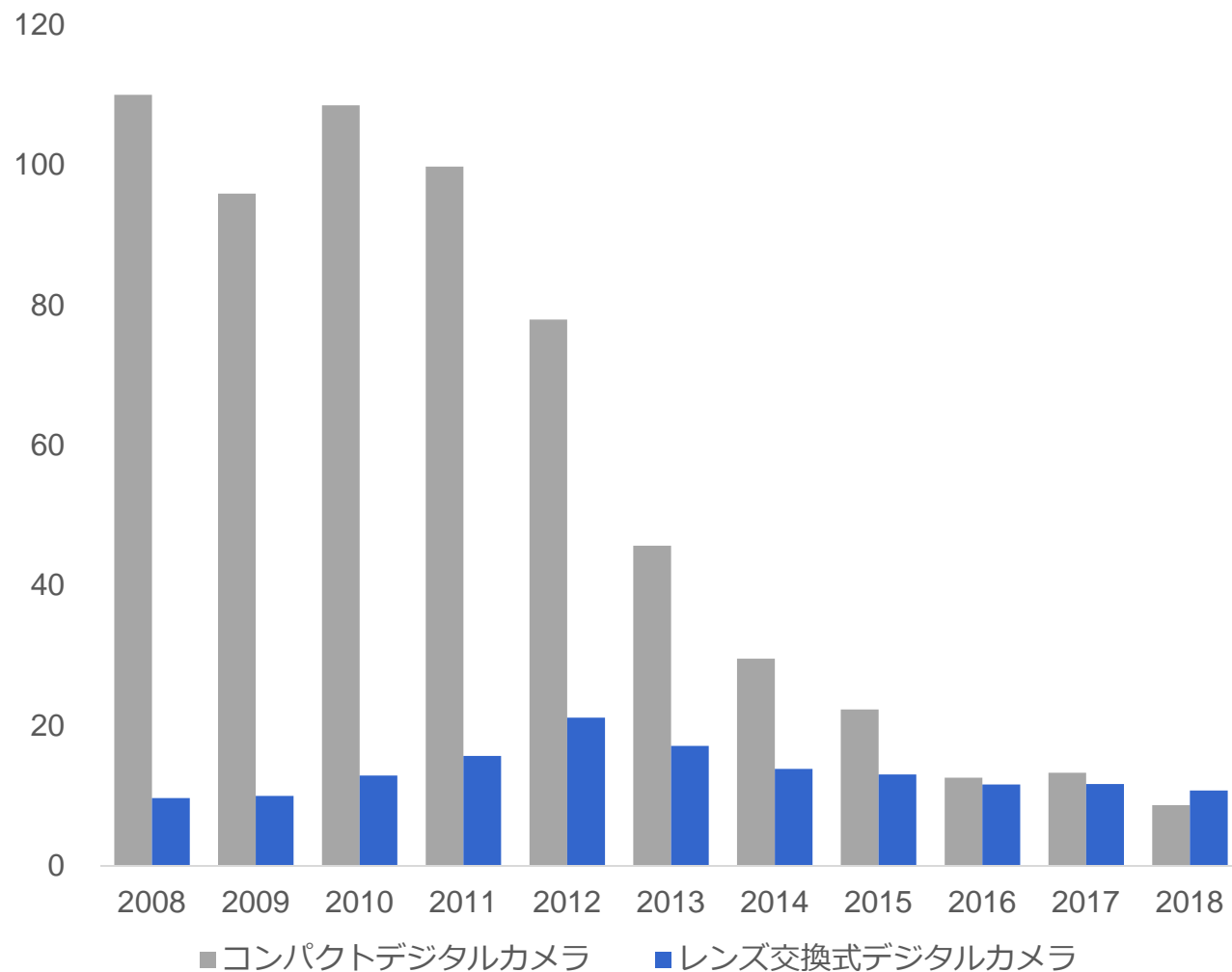
写真関連

46% → 74%

**TAMRON**

## 補足 市場環境（デジタルカメラ販売台数）

(百万台)



出所：CIPA

### 2008年と現在の比較

コンパクトカメラ

**93%減**

レンズ交換式カメラ

**減少傾向**

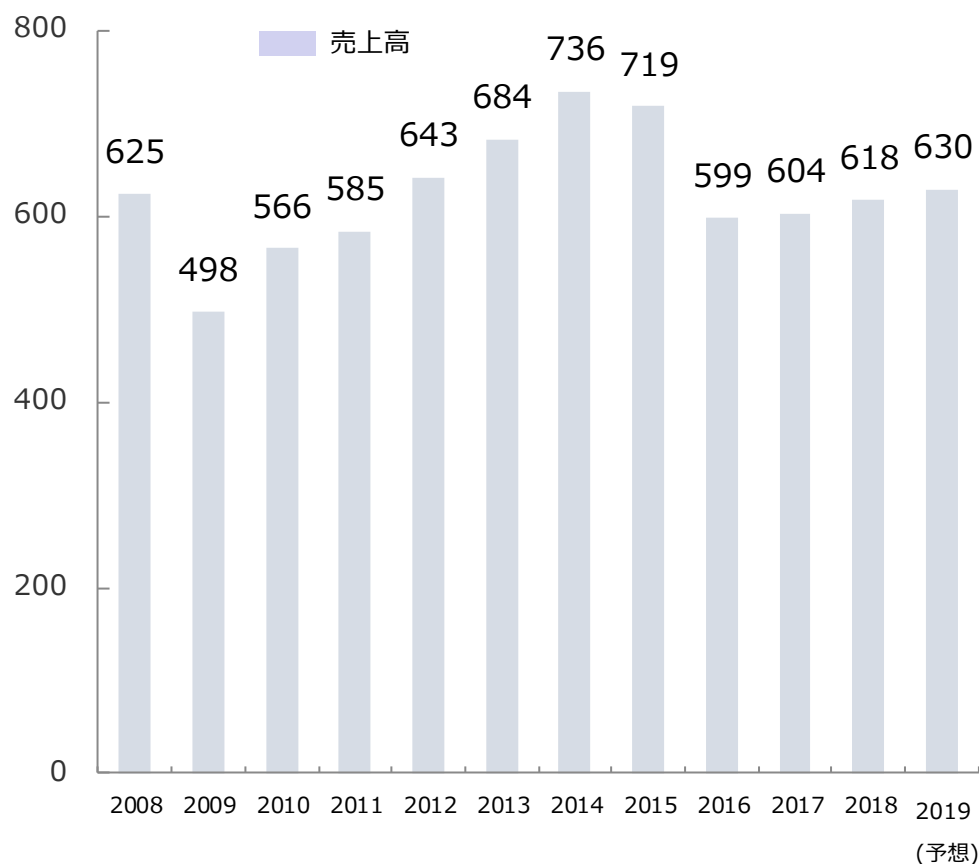
(ピーク:2012年)

**TAMRON**

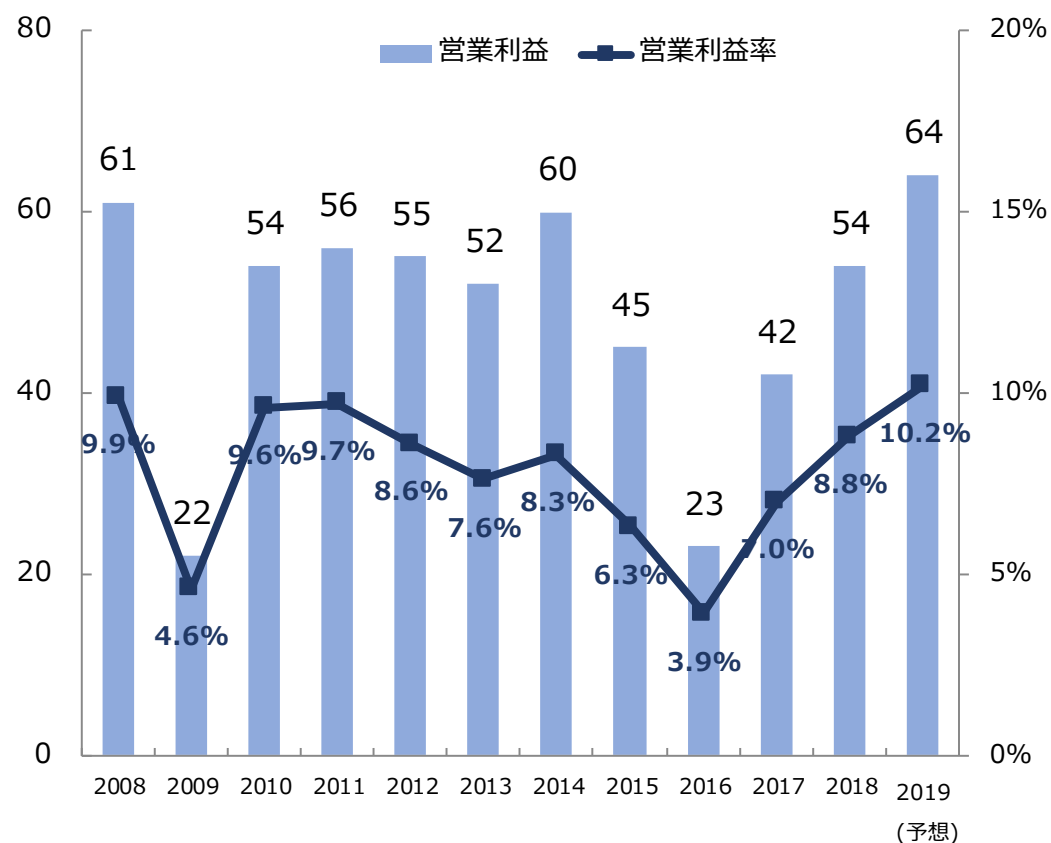
# 補足 連結業績動向（売上高・営業利益）

## 2017年から増収増益 営業利益率は3.9%→10.2%へ

(単位：億円)



(単位：億円)



**TAMRON**



# 補足 1年間の株価推移



(C) 2019 Yahoo Japan Corporation.

<https://stocks.finance.yahoo.co.jp>

**TAMRON**

---

## Ⅱ. 事業概要

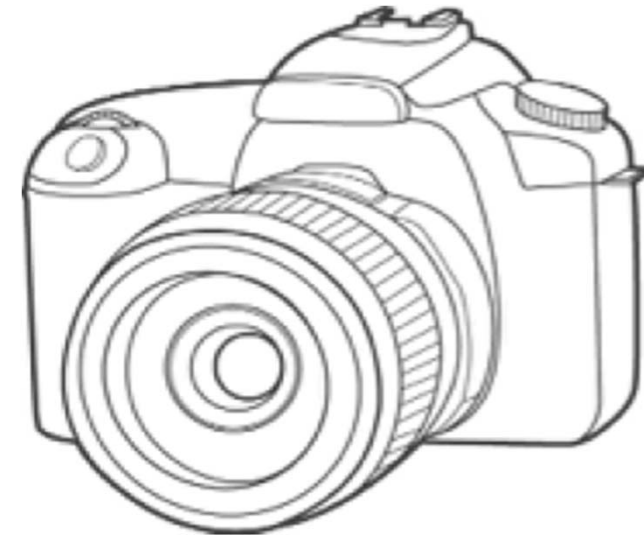
## Ⅱ-1 写真関連事業

### ラインナップ

一眼レフカメラ用交換レンズ  
ミラーレスカメラ用交換レンズ



レンズ交換式カメラ



**TAMRON**

## Ⅱ-1-① 市場環境（レンズ交換式カメラ出荷金額）

(億円)

7,000

6,000

5,000

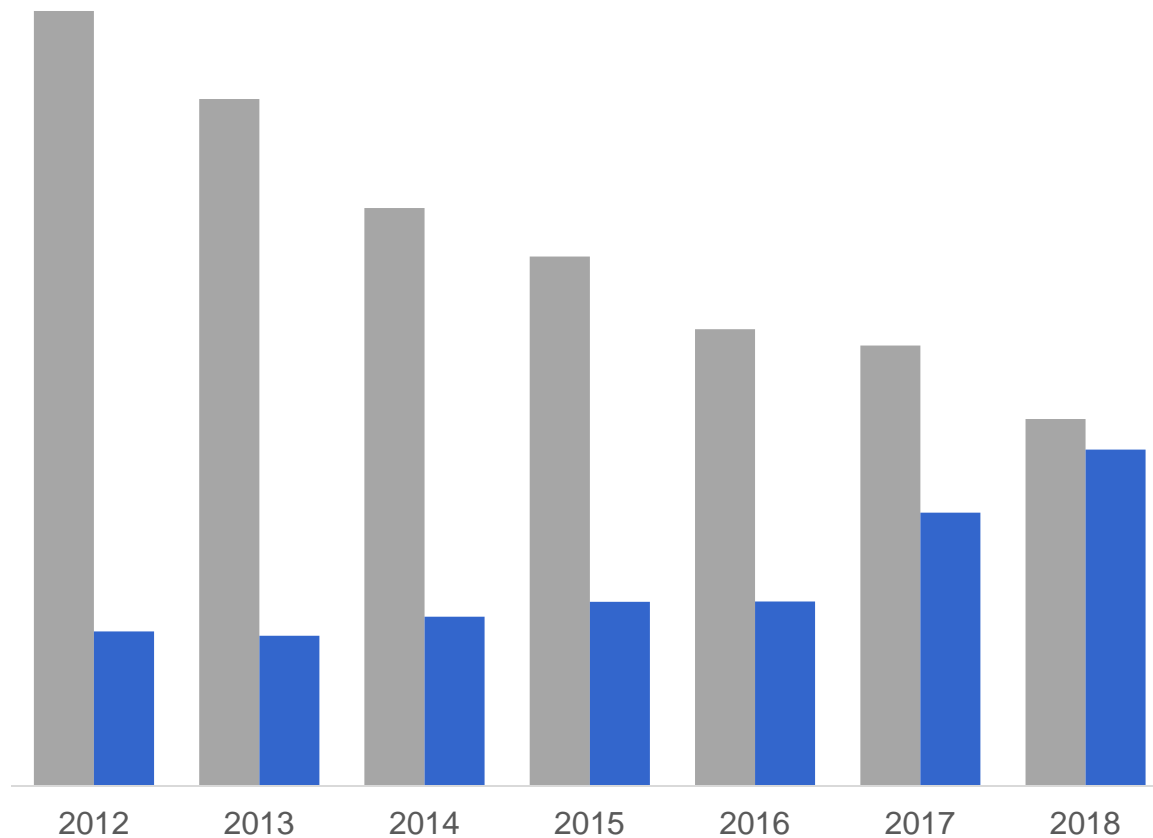
4,000

3,000

2,000

1,000

0



■一眼レフカメラ ■ミラーレスカメラ

出所：CIPA

2018年（対前年比）

一眼レフカメラ

**17%減**

ミラーレスカメラ

**23%増**

19年はミラーレスが  
一眼レフを逆転見込み

**TAMRON**

## Ⅱ-1-② 市場環境（交換レンズ出荷金額）

(億円)

6,000

5,000

4,000

3,000

2,000

1,000

0

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

■ フルサイズ ■ APS-Cなど

出所：CIPA

2018年（対前年比）

APS-Cなど

**12%減**

フルサイズ

**12%増**

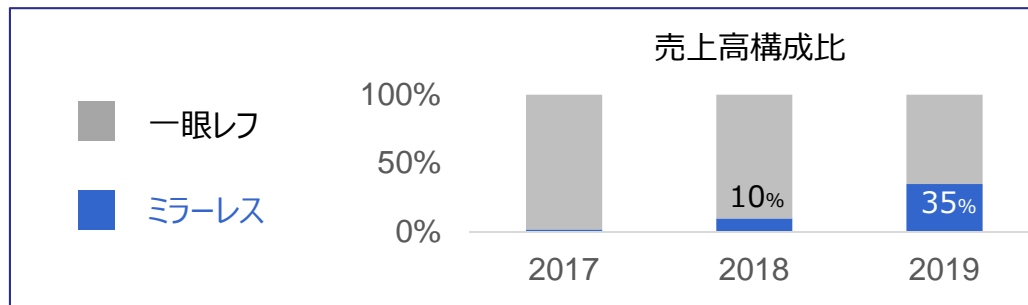
**TAMRON**



## II-1-③ 交換レンズラインナップと今後の戦略

	2017/1	2018/12	2019/12
広角ズーム	2	4	5
標準ズーム	3	4	5
高倍率ズーム	6	7	7
望遠ズーム	6	8	8
単焦点(マクロ含む)	6	5	8
合計	23	28	33

※うち、ミラーレス用	2	3	6
------------	---	---	---



市場

- ・ミラーレス増
- ・フルサイズ増



当社

- ・ミラーレス拡充へ

**TAMRON**

## Ⅱ-1-④ 自社ブランド新製品投入状況

区分		2017年投入	2018年投入	2019年投入
一眼	単焦点			6月発売  SP 35mm F/1.4 USD (F045)
	広角	3月発売  10-24mm VC HLD (B023)	9月発売  9月発売  17-35mm F/2.8-4 OSD (A037)	
	標準	8月発売  SP 24-70mm F/2.8 VC USD G2 (A032)	SP 15-30mm F/2.8 VC USD G2 (A041)	
	高倍率	7月発売  18-400mm VC HLD (B028)		
	望遠	2月発売  2月発売  SP 70-200mm F/2.8 VC USD G2 (A025) SP 70-300mm VC USD (A030) 11月発売  100-400mm VC USD (A035)	4月発売  70-210mm F/4 VC USD (A034)	5月発売  35-150mm F/2.8-4 VC OSD (A043)
ミラーレス			5月発売  28-75mm F/2.8 RXD (A036)	7月発売  17-28mm F/2.8 RXD (A046) 12月発売  12月発売  24mm F/2.8 OSD M1:2 (F051) 35mm F/2.8 OSD M1:2 (F053)

## II-1-⑤ ミラーレス機種 A036とA046の特徴

28-75<sub>mm</sub> F/2.8

Di III RXD for SONY full-frame mirrorless

ミラーレスに新たな風を。

これまでにない美しさとやわらかなボケ味  
目指したのは高画質と小型軽量の両立  
世界を鮮やかに写す。

Model A036



ソニーEマウント用  
Di III: ミラーレス一眼カメラ専用レンズ

17-28<sub>mm</sub> F/2.8

Di III RXD for SONY full-frame mirrorless

ひろがる、ミラーレスの世界。

大口径F/2.8、フィルター径φ67mmを達成。  
クラス最小・最軽量\*、超広角ズームレンズ。  
いつもと違う、道を歩こう。

\*35mm判フルサイズ対応のデジタル一眼カメラ用F/2.8より明るい超広角ズームレンズにおいて。(2019年5月現在、タムロン調べ)

Model A046



ソニーEマウント用  
Di III: ミラーレス一眼カメラ専用レンズ



価格ドットコム  
レンズ人気売れ筋ランキング  
(2019年11月14日現在)

2位

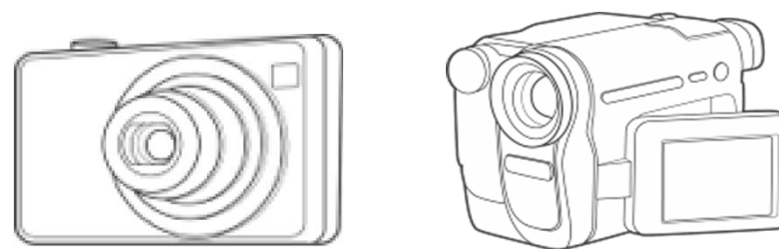
発売から1年半を経過したが、今なお人気

TAMRON

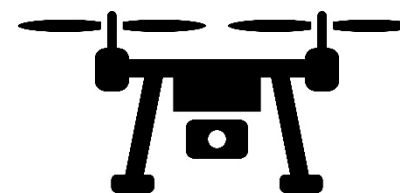
## Ⅱ-2 レンズ関連事業

### 全てOEM（相手先ブランドによる生産）

ビデオカメラ用レンズ  
デジタルカメラ用レンズ



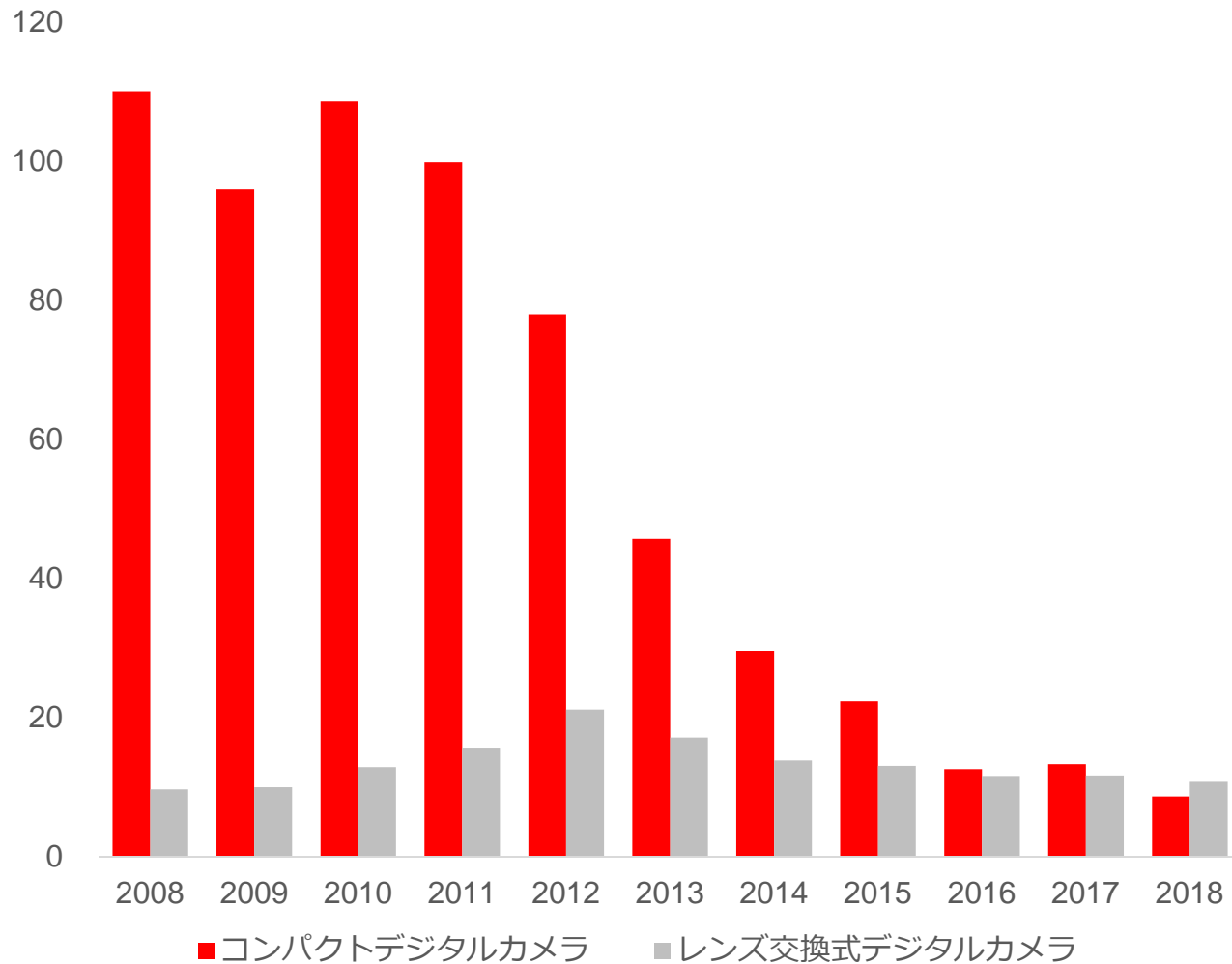
ドローン用レンズ



**TAMRON**

## Ⅱ-2-① 市場環境（コンパクトカメラ）

(百万台)



出所：CIPA、2019年以降は当社推定

### 2008年と現在の比較

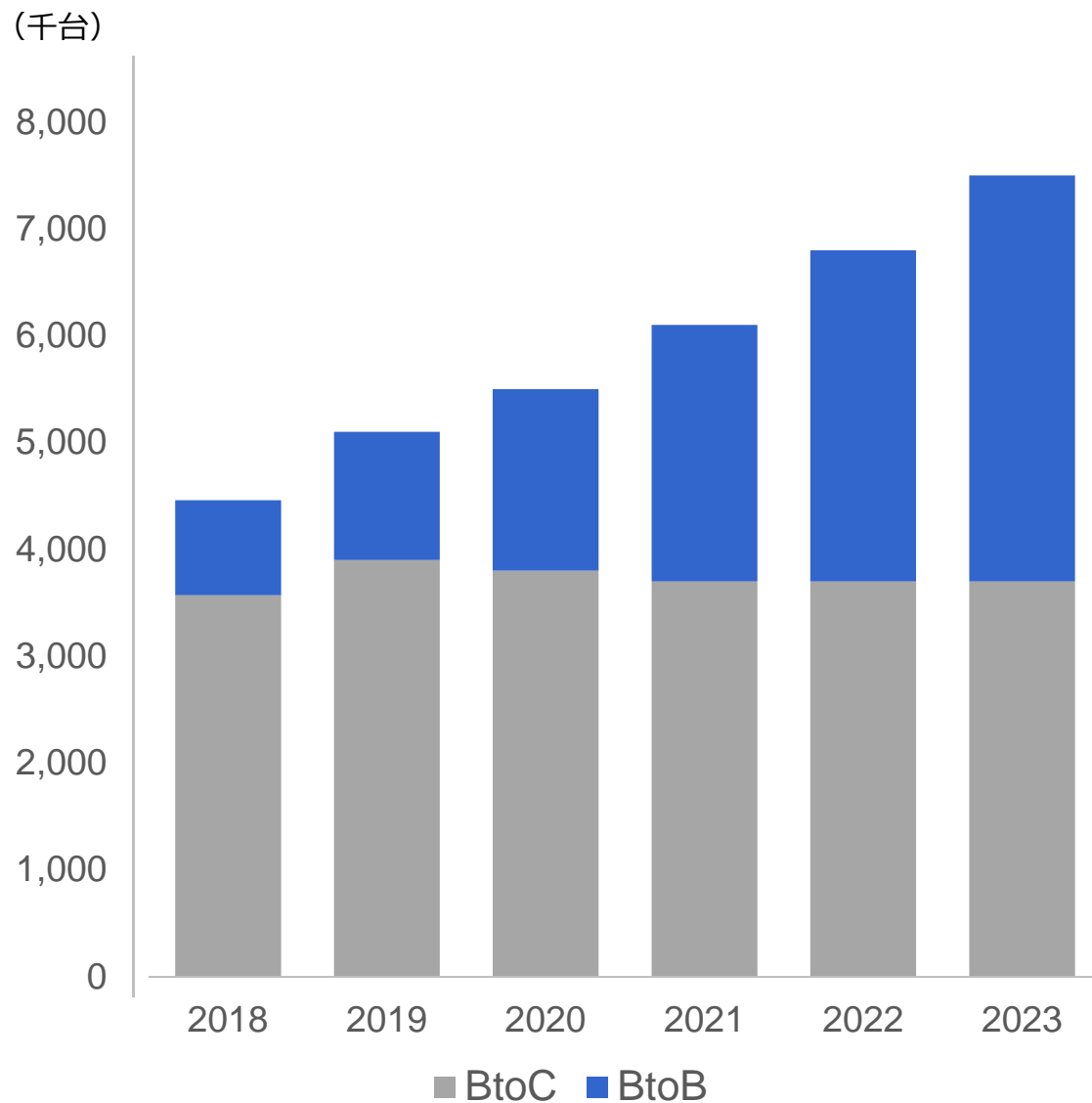
コンパクトカメラ

**93%減**

**TAMRON**



## Ⅱ-2-② 市場環境（ドローン）



当社推定

### ドローン市場の見通し

BtoC  
ほぼ横ばい

BtoB  
4倍  
(2023年・18年比)

**TAMRON**

## II-3 特機関連事業 (監視カメラ用レンズ)

カメラモジュール



監視カメラ用レンズ



FA/マシンビジョン用レンズ



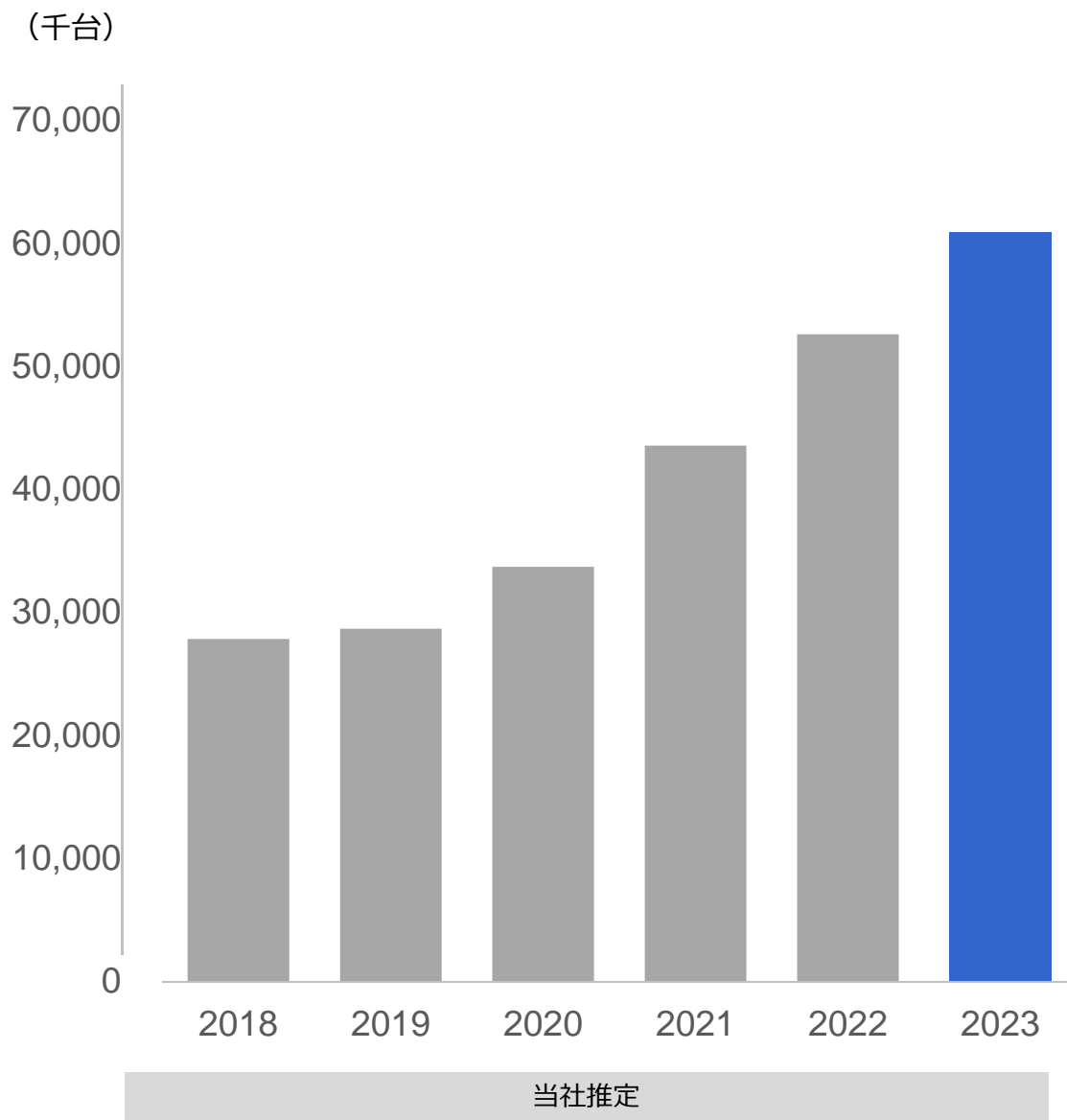
設置場所：銀行、空港、コンビニ、ビル、駐車場、駅 等々



### 主要取引先

全世界主要カメラメーカー（日本、米国、欧州、韓国、台湾、中国など）

## Ⅱ-3-① 市場動向（監視カメラ）



監視カメラ市場の見通し

# 2.2倍

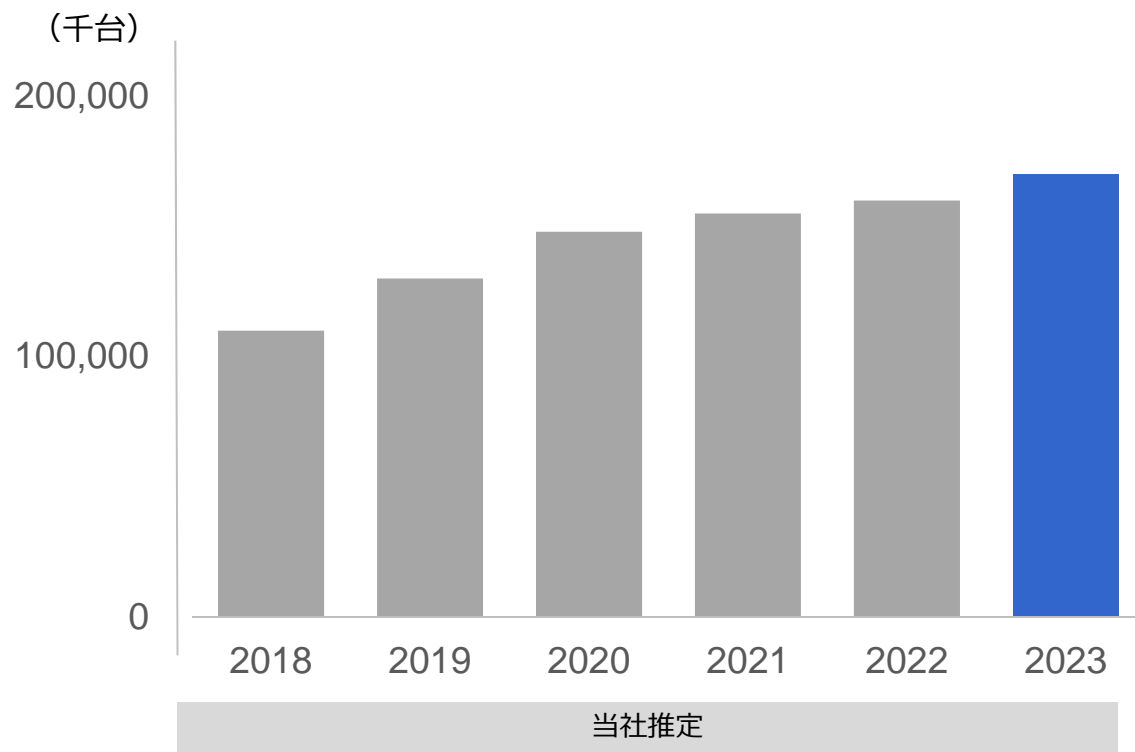
(2023年・18年比)

### 当社の強みと戦略

強み	<ul style="list-style-type: none"><li>・技術対応力 4K/8K対応、コーティング、高耐久性、光学防振</li><li>・モジュール化技術</li><li>・多様な開発体制</li><li>・世界中の大手カメラメーカーと取引有</li></ul>
戦略	<ul style="list-style-type: none"><li>・効率的な開発体制</li><li>・モジュール化技術活用</li><li>・中国メーカー向けの売上増加</li></ul>

# TAMRON

## Ⅱ-3-② 市場環境（車載カメラ）



車載カメラ市場の見通し

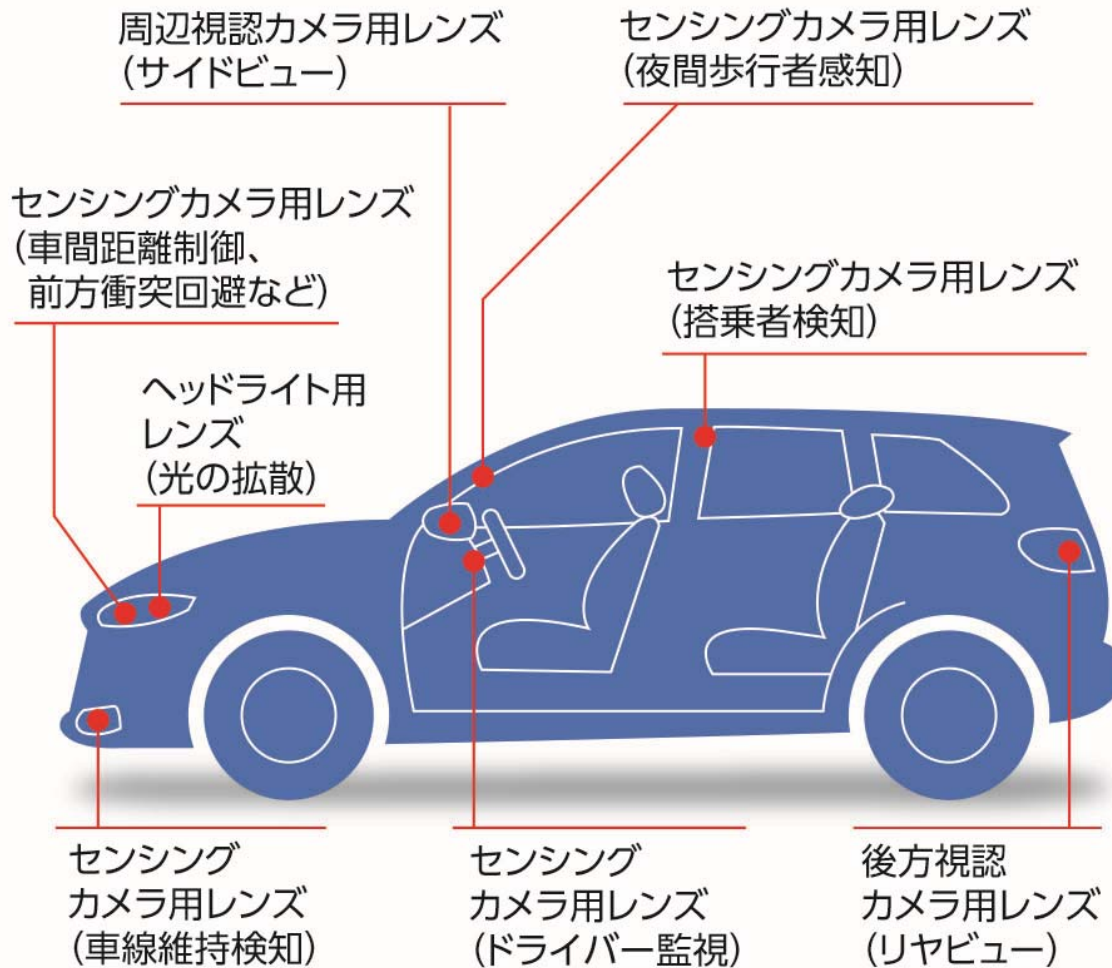
**1.7倍**

**(2023年・18年比)**

### 自動運転レベルの実用化ロードマップ<sup>o</sup>

	自動運転レベル	実用化時期	技術の概要	安全運転の主体
易 ↓ 難	レベル1 運転支援	実用化済	アクセル、ハンドル、ブレーキの内、一つを自動車が操作	運転者
	レベル2 部分的自動運転	車種増加中	アクセル、ハンドル、ブレーキの内、複数自動車が操作	運転者
	レベル3 条件付自動運転	2020年頃	限定領域で通常時は自動車が操作。緊急時のみ運転手が操作	システム(緊急時除く)
	レベル4 高度自動運転	2025~30年	高速道路など限定領域で自動車が全てを操作	システム
	レベル5 完全自動運転	時期は非設定	自動車が全てを操作	システム

## II-3-③ 車載カメラ



## 当社の強みと戦略

強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術対応力 コーティング、高耐熱性、高信頼性、高精度レンズ/鏡筒、金型加工技術</li> <li>・生産体制の充実</li> <li>・BCP含む安定供給力</li> <li>・大手Tier1, Tier2メーカーとのパイプ有</li> </ul>
戦略	<p><b>【製品】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センシング、ビュー、Lidar、照明</li> </ul> <p><b>【生産】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動化推進（組立、評価）</li> </ul> <p><b>【技術】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調心、GM</li> </ul>



---

## Ⅲ. 業績動向

## Ⅲ-1-① 中期経営計画 リーマンショック以降の最高益目指す

### 2020年計画数値

	2017年	2020年
売上高	605億円	720億円
営業利益	42億円	66億円
営業利益率	7.0%	9.2%
ROE	5.8%	9%以上

### 分野別基本方針

デジタルカメラ分野 (成熟市場)	大きな売上成長は前提とせず、収益性向上を最優先 (自社ブランドでの粗利率の向上、事業運営コストの効率化)
監視/FA関連分野 (安定成長市場)	多様な開発体制とレンズユニット・モジュール両輪での事業体制確立 (競争力の維持・確保、産業向けでの裾野拡大)
重点分野 (高成長市場) ※ドローン/車載	積極的なリソース投入による事業規模拡大フェーズ (開発キャパ確保等による対応力強化) (要素技術開発・コスト対応にかかる研究開発・設備投資) ⇒各重点分野での地位確立
新規分野 (医療など)	協業・M&A等も含めた新規事業候補の創出フェーズ ⇒2021年以降の本格的な売上成長実現を見据えた確実な仕込み

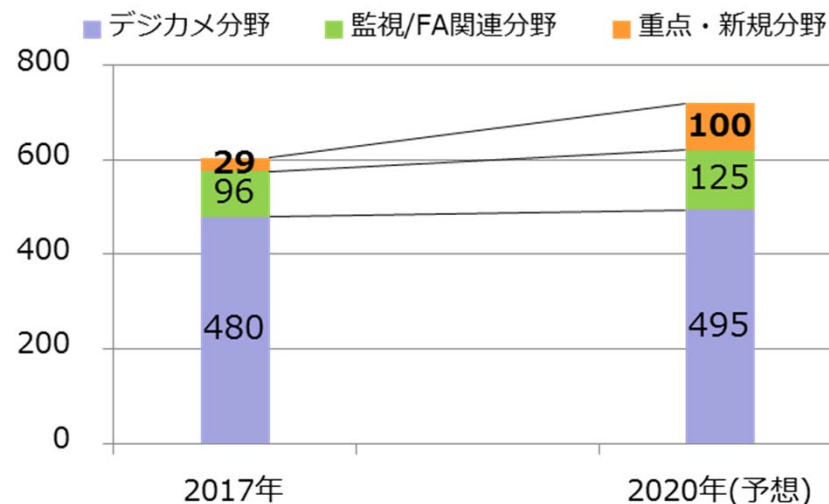
# Ⅲ-1-② 中期経営計画

- ・デジタルカメラ関連の売上構成比：80%⇒60%台へ
- ・重点・新規分野の売上高：約100億円

(単位：億円)

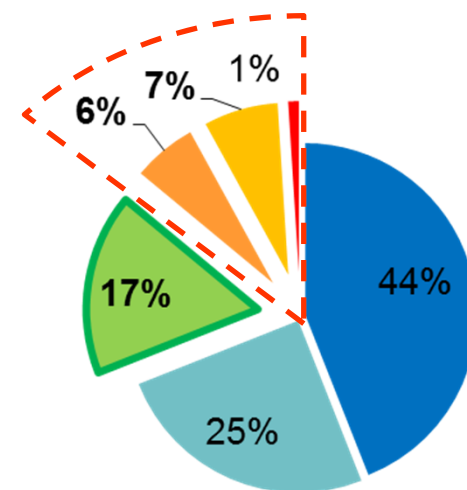
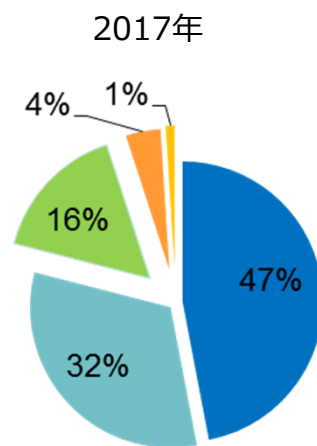
セグメント	カテゴリ	分野	2017年	2020年
写真 関連	自社	デジタルカメラ	283	<b>315</b>
	OEM	デジタルカメラ	170	<b>175</b>
	計		453	<b>490</b>
レンズ 関連	DSC/VC	デジタルカメラ	27	<b>5</b>
	ドローン	重点	6	<b>48</b>
	他	監視/FA関連	1	<b>2</b>
	計		34	<b>55</b>
特機 関連	監視/FA他	監視/FA関連	95	<b>123</b>
	車載	重点	23	<b>45</b>
	他	新規	-	<b>7</b>
	計		118	<b>175</b>

(単位：億円)



2020年

■ 自社ブランド ■ デジカメ関連OEM  
■ 監視/FA関連 ■ 車載  
■ ドローン ■ 新規



## Ⅲ-2-① 2019年通期 連結業績

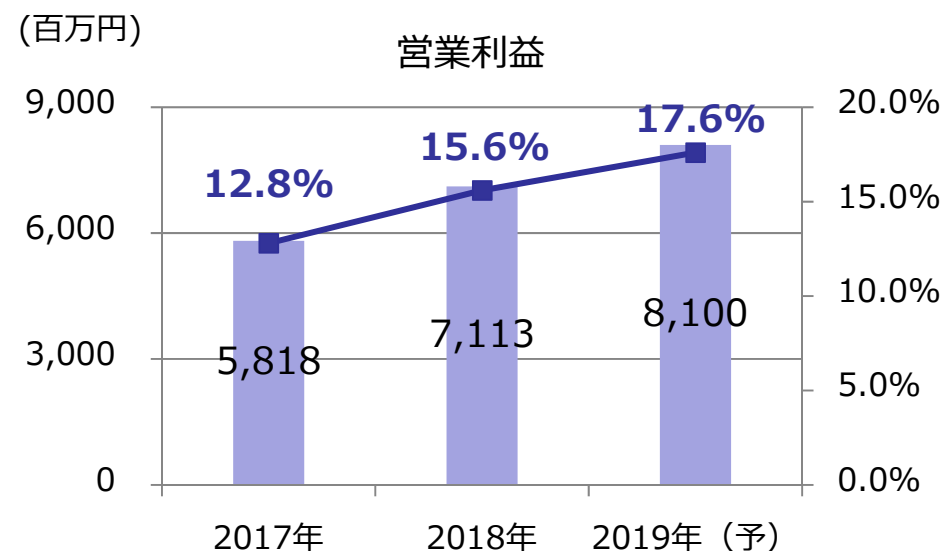
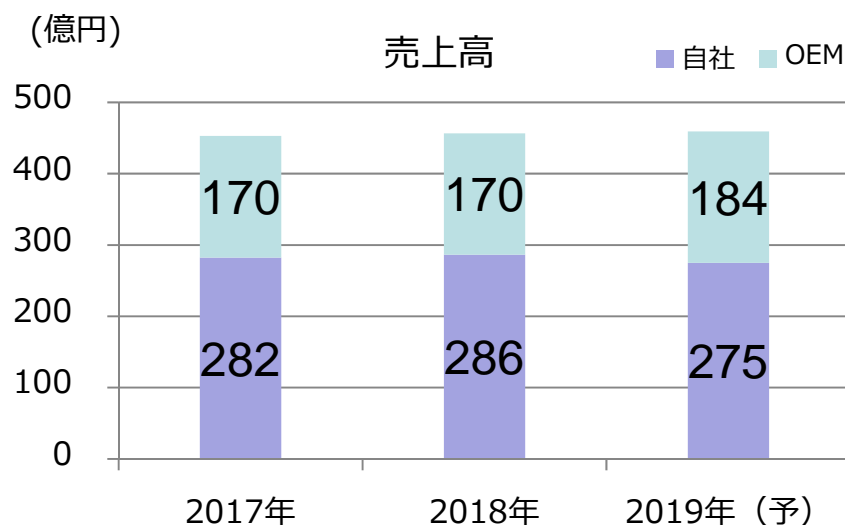
(単位：百万円)	2018年 通期実績	2019年 修正計画 (10/31)	増 減 (対前年)	
			額	率
売上高	61,815	63,000	+1,184	101.9%
営業利益	5,424	6,400	+975	118.0%
営業利益率	8.8%	10.2%	+1.4%	—
経常利益	5,877	6,700	+822	114.0%
経常利益率	9.5%	10.6%	+1.1%	—
当期純利益	4,330	4,690	+359	108.3%
純利益率	7.0%	7.4%	+0.4%	—
ドル	110.45	108.80	△1.65	—
ユーロ	130.38	121.50	△8.88	—

**TAMRON**

## Ⅲ-2-② 2019年通期 セグメント別業績 写真関連

(単位：百万円)	2018年 通期実績	2019年 修正計画 (10/31)	増減 (対前年)	
			額	率
売上高	45,640	45,900	+259	100.6%
営業利益	7,113	8,100	+986	113.9%
営業利益率	15.6%	17.6%	+2.0%	-

➤ 増収を見込み、利益率も円高影響受けるも17%台へと上昇目指す。



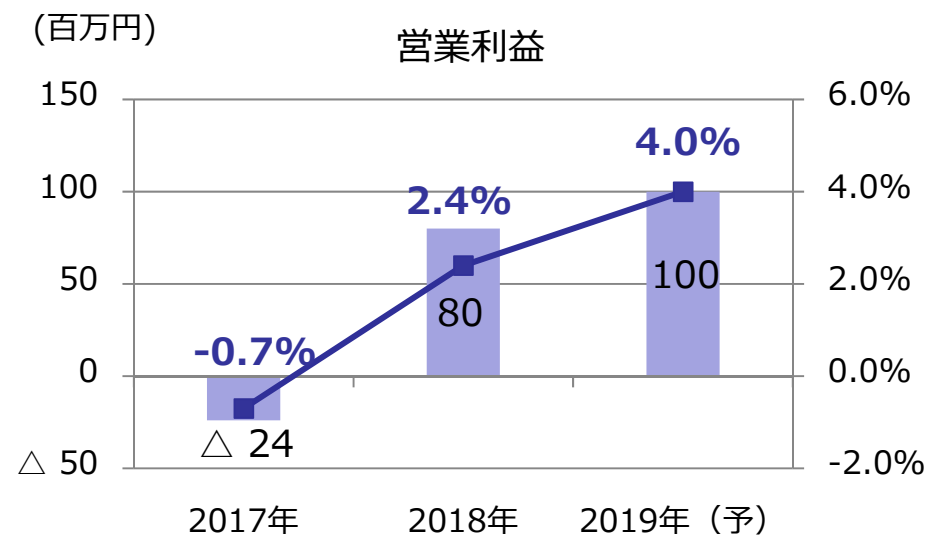
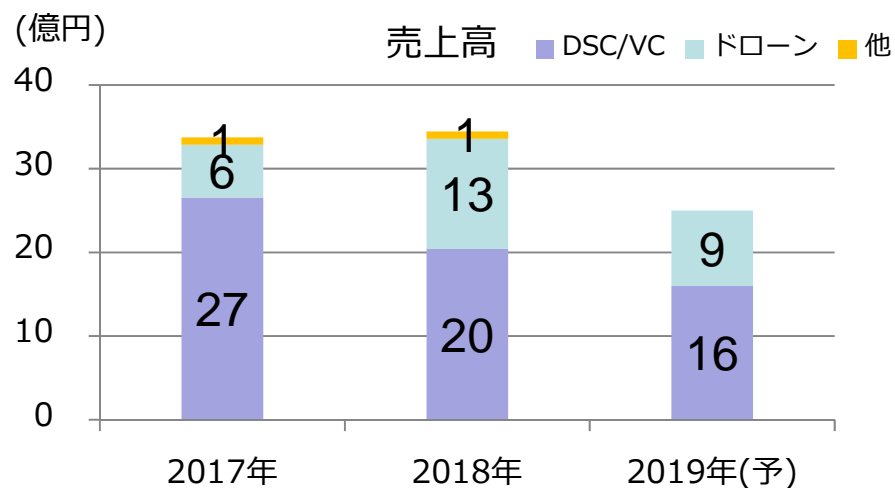
**TAMRON**

## Ⅲ-2-③ 2019年通期 セグメント別業績 レンズ関連

(単位：百万円)

	2018年 通期実績	2019年 修正計画 (10/31)	増減 (対前年)	
			額	率
売上高	3,436	2,500	△936	72.7%
営業利益	80	100	+19	123.5%
営業利益率	2.4%	4.0%	+1.6%	-

➤ DSC/VC、ドローン用共に減収見込みも営業黒字



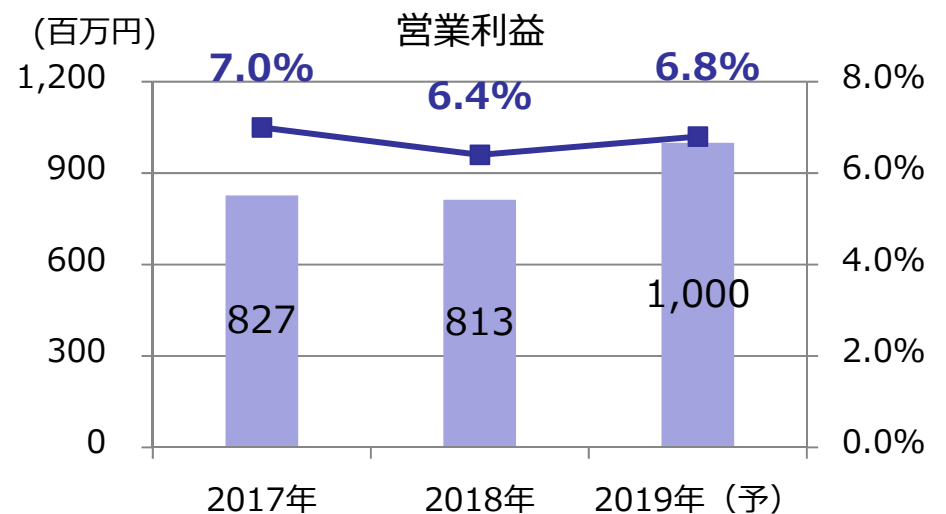
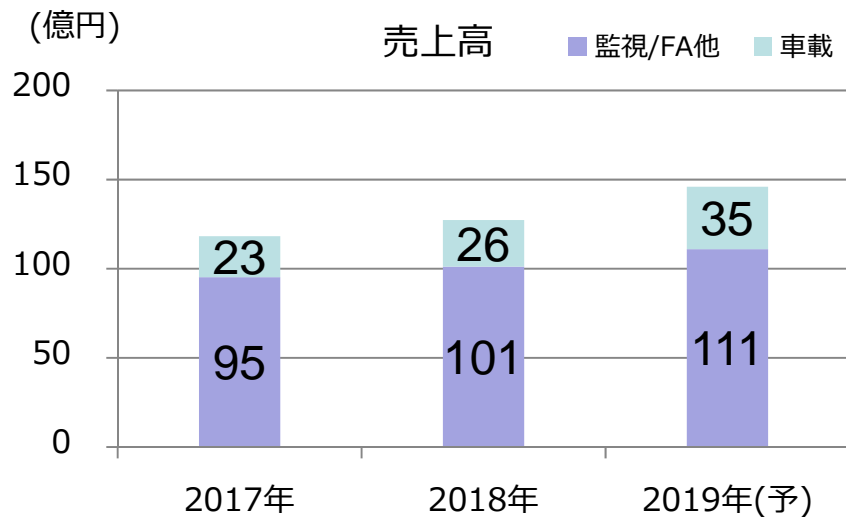
**TAMRON**

# Ⅲ-2-④ 2019年通期 セグメント別業績 特機関連

(単位：百万円)

	2018年 通期実績	2019年 修正計画 (10/31)	増減 (対前年)	
			額	率
売上高	12,738	14,600	+1,861	114.6%
営業利益	813	1,000	+186	123.0%
営業利益率	6.4%	6.8%	0.4%	-

➤ 監視/FA他、車載用レンズ共に増収で**2ケタ増収増益**を目指す。



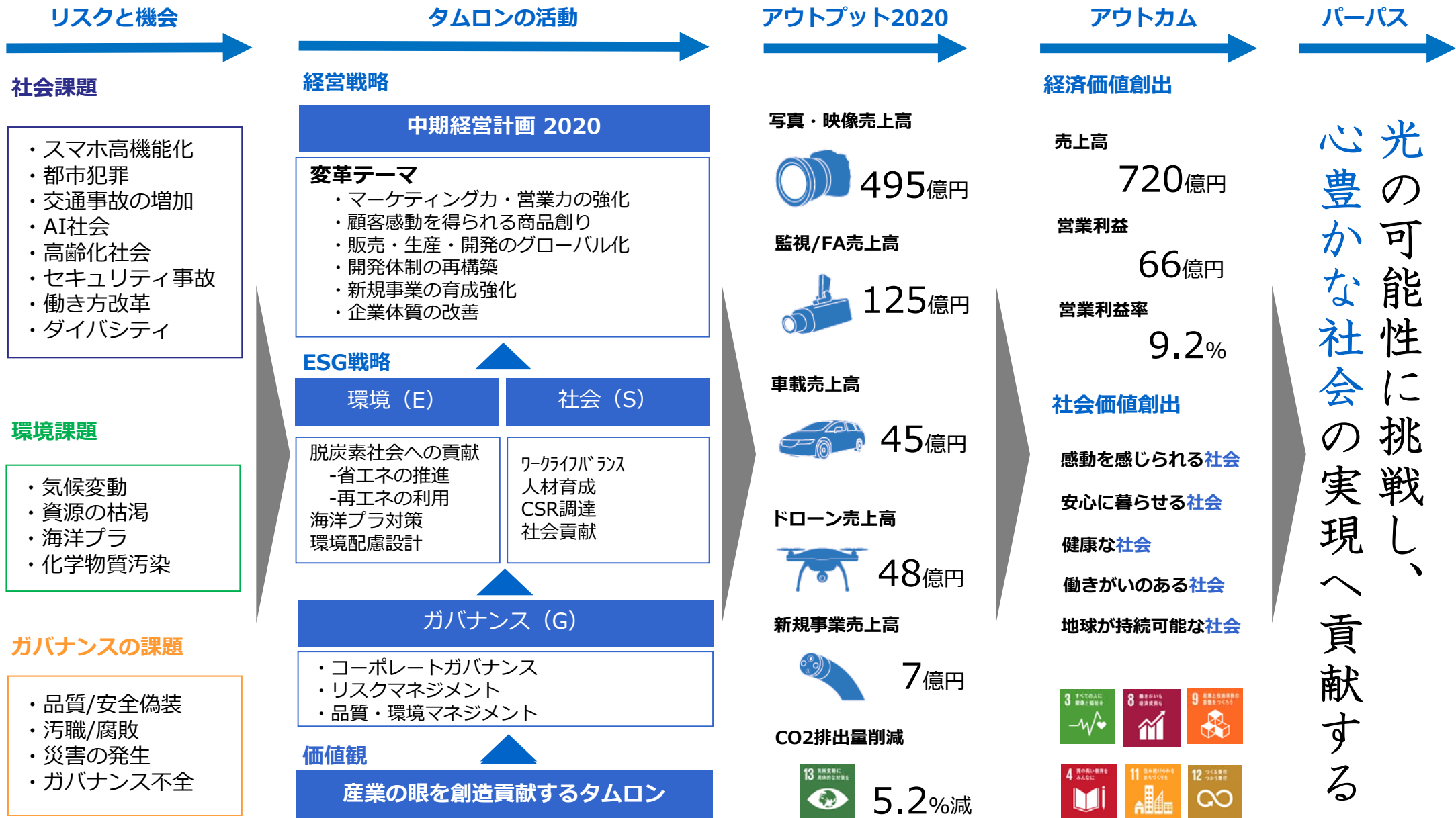
**TAMRON**



---

## IV. ESGの取り組み

# IV-1 ESGの取り組み（価値創造プロセス）



# IV-1 ESGの取り組み (CSR重要課題)

## 経営戦略

中期経営計画 2020

## CSR重要課題

CSR重要課題	CSR12テーマ
事業による社会課題への貢献(新規事業含む)	SDGs
製品品質・安全管理の強化	品質・製品安全
CSR調達の推進	CSR調達
CO <sub>2</sub> 削減	環境
資源循環の実現・廃棄物の削減	
環境配慮設計	
有害化学物質の削減	
水の管理	
人財育成(生産性向上)	
働きやすい職場環境の提供とダイバーシティの推進	コーポレート・ガバナンス
ガバナンス体制の改善	
非財務情報の開示拡大	情報開示
内部通報制度の充実	情報管理
大規模災害への備え(再構築)	危機管理
次世代育成 <sup>(注4)</sup>	社会貢献
	労働安全衛生
	コンプライアンス

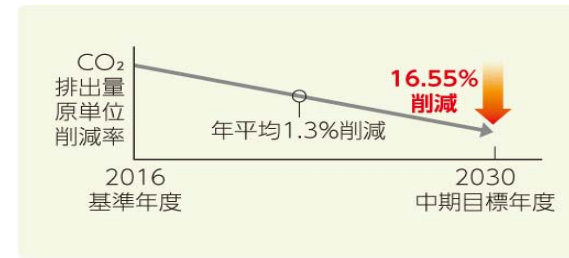
(注4)次世代育成とは、拠点エリアを中心に、将来の写真・映像文化を担う若者の育成支援を行う社会貢献のこと。

## 価値観

産業の眼を創造貢献するタムロン

## 環境

省エネの推進と再エネ導入により目標達成を目指す



## 社会

働きやすい職場環境の提供とダイバーシティの推進

目標

- ・新卒女性採用比率 : 25% (2021年)
- ・女性管理職目標 : 11% (2019年)



主な取り組み

- ・テレワーク制度の導入 (2019年)
- ・週2日間の完全ノー残業デー (2017年)
- ・女性活躍支援制度の拡充 (企業内保育園、短時間勤務制度)



NIKKEI Smart Work  
★★★★ 2020

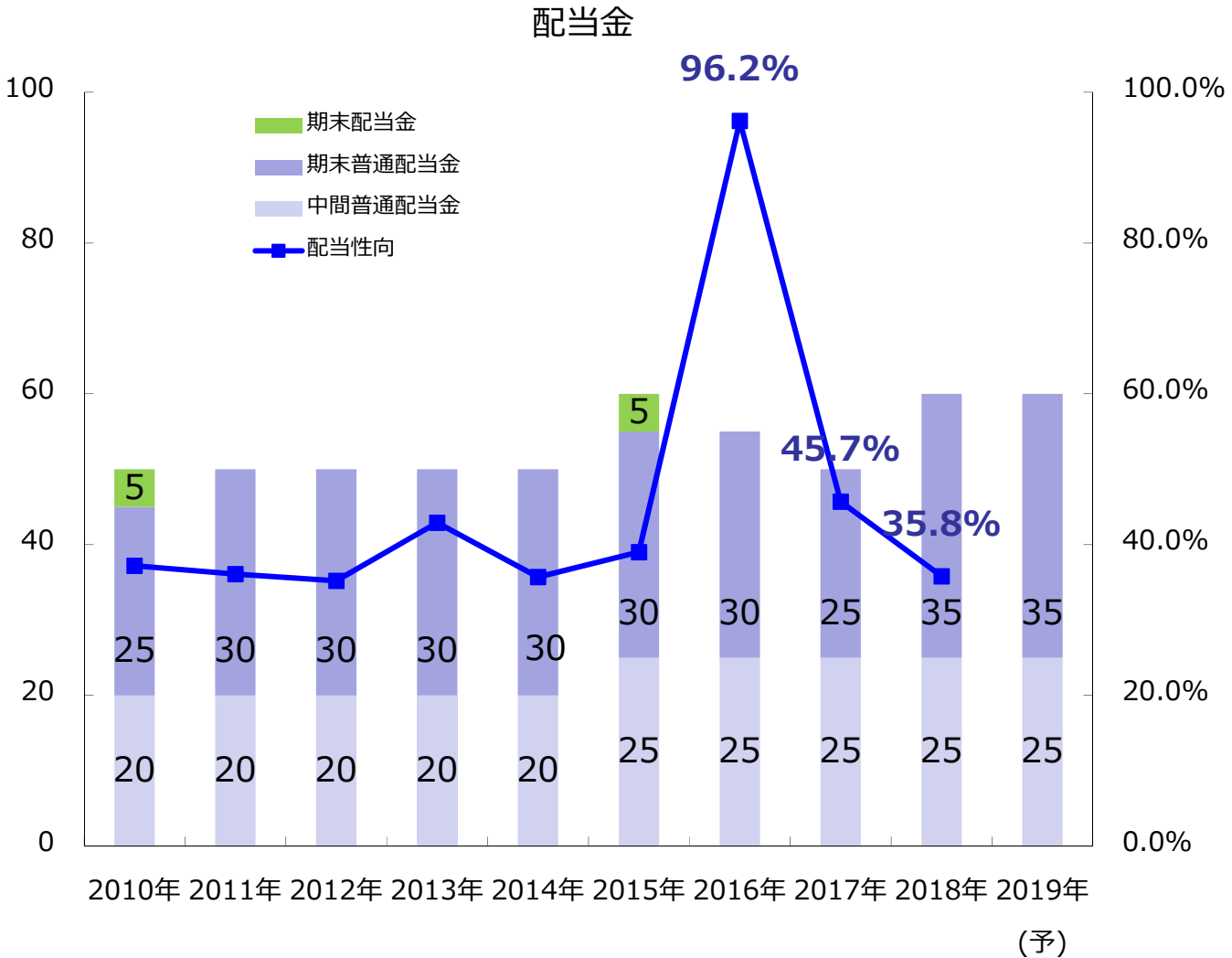


---

## V. 配当政策

# V-1 配当政策

(単位：円)



・配当性向目標

**35%程度**

(連結ベース)

・安定配当

※2010年期末配当金には創業60周年記念配当5円、  
2015年期末配当金には創業65周年記念配当5円含む

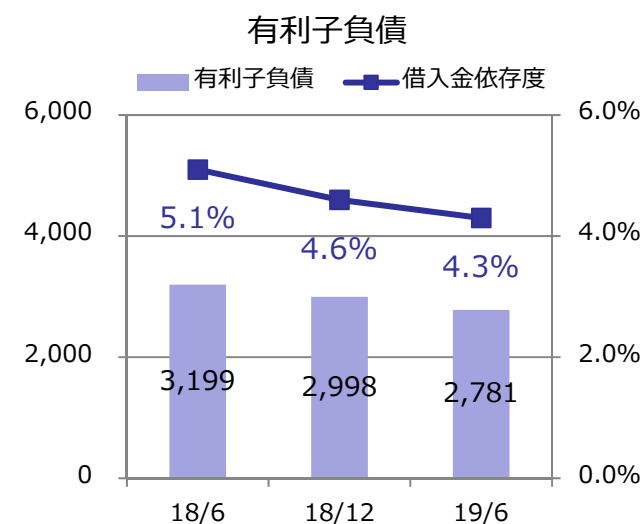
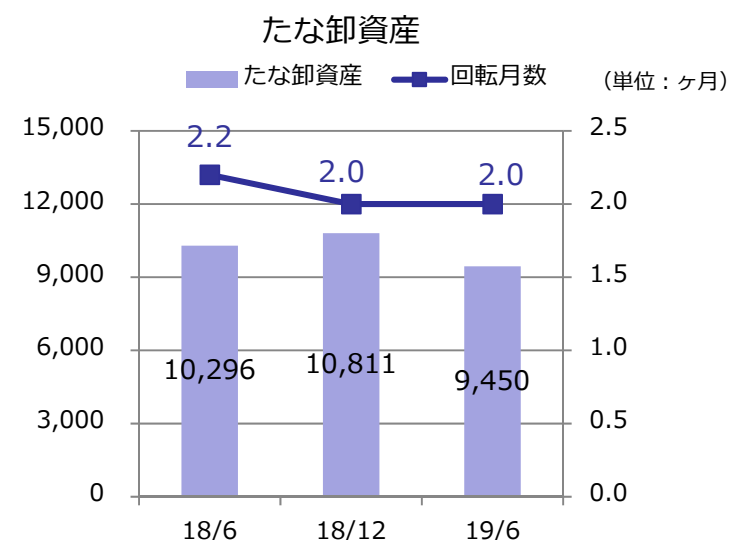
**TAMRON**

---

## VI. その他経営指標

# VI-1. 財政状況

(単位：百万円)	2018年 12月末	2019年 6月末	増減 (対前期末)
現金・預金	22,438	24,905	+2,467
受取手形・売掛金	13,407	12,525	△882
たな卸資産	10,811	9,450	△1,361
その他流動資産	1,143	1,351	+207
固定資産	16,903	16,445	△457
<b>資産合計</b>	<b>64,704</b>	<b>64,678</b>	<b>△26</b>
流動負債	11,553	11,016	△536
固定負債	2,299	2,297	△1
純資産	50,852	51,363	+511
<b>負債純資産合計</b>	<b>64,704</b>	<b>64,678</b>	<b>△26</b>
自己資本比率	78.6%	79.4%	0.8%

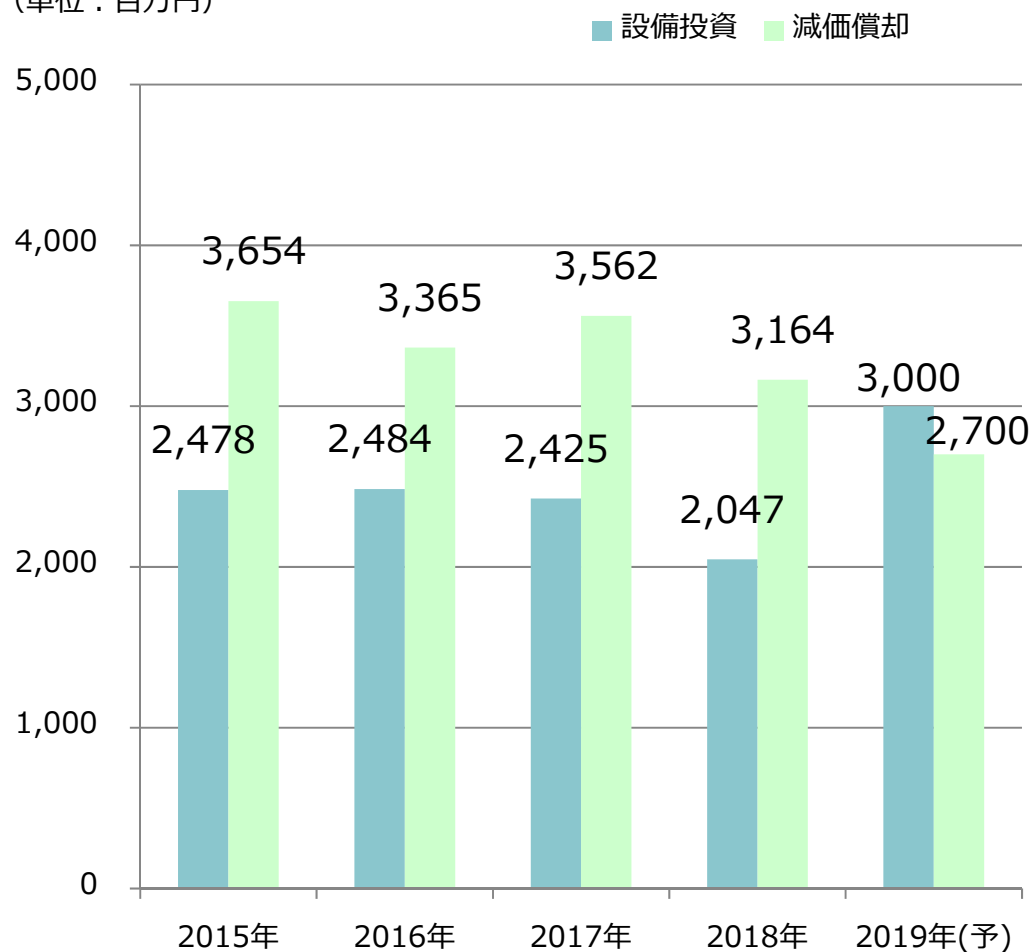


**TAMRON**

## VI-2. 設備投資額、減価償却費、研究開発費

設備投資額・減価償却費

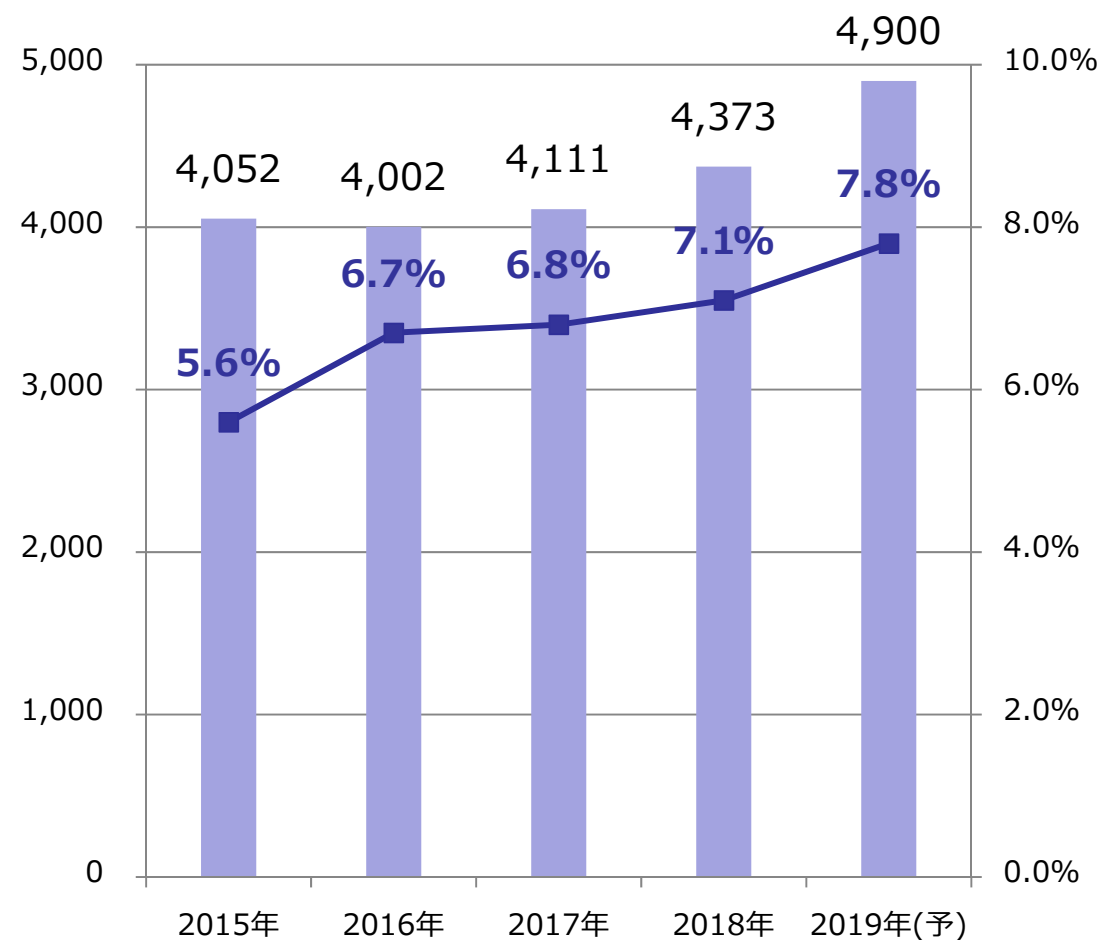
(単位：百万円)



研究開発費

(単位：百万円)

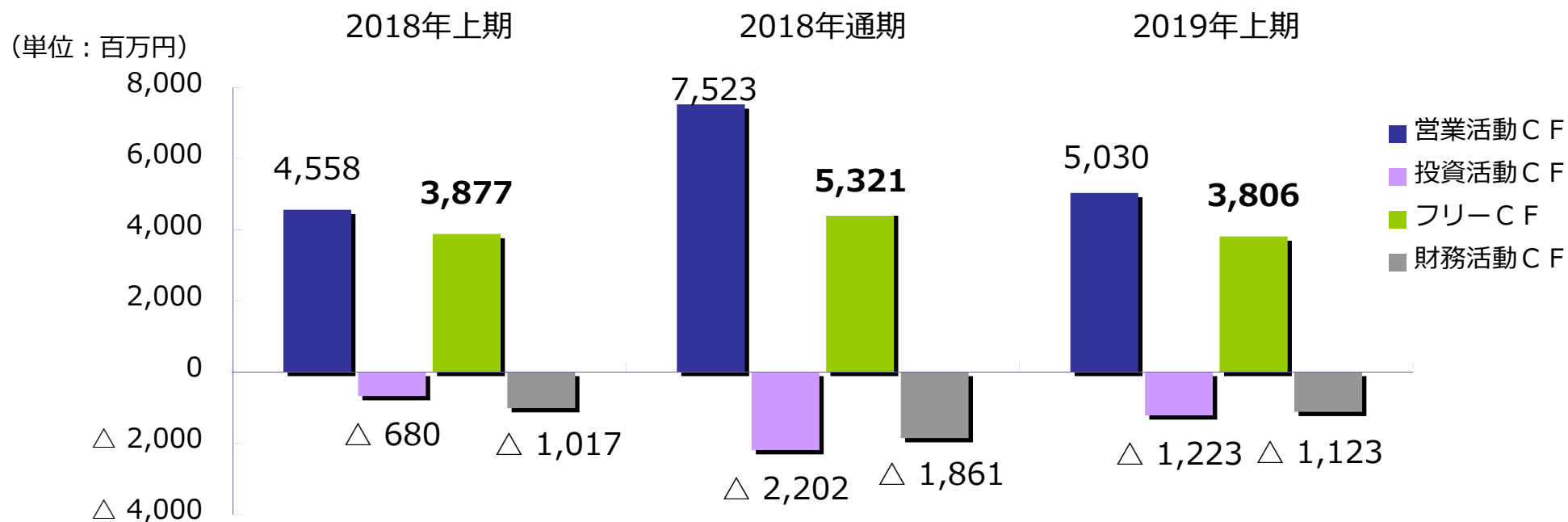
売上高  
研究開発費比率



**TAMRON**



## VI-3. キャッシュ・フロー

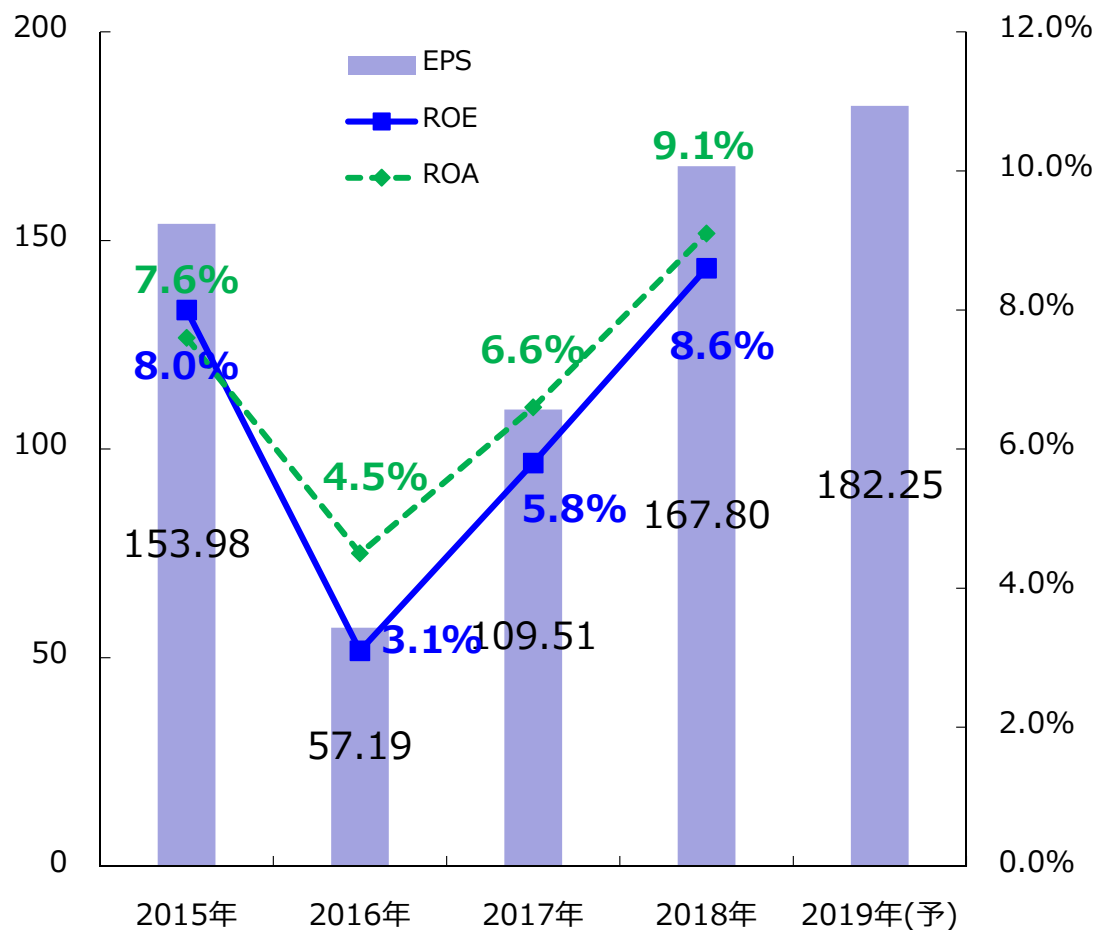


	2018年上期	2018年通期	2019年上期
営業活動CF	4,558	7,523	5,030
投資活動CF	△680	△2,202	△1,223
フリーCF	3,877	5,321	3,806
財務活動CF	△1,017	△1,861	△1,123
現金及び現金同等物の期末残高	21,976	22,438	24,905

# VI-4. 主要經營指標

(單位：円)

主要經營指標



ROE = 当期純利益 / 純資産 (分母は期中平均)  
 ROA = 経常利益 / 資産合計 (分母は期中平均)

**TAMRON**

# 将来の事象に係る記述に関する注意

---

1. 本資料は、2019年12月期の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の購入や売却を勧誘するものではありません。
2. 本プレゼンテーション資料及び当社代表者が口頭にて提供する情報は、現時点で入手可能な情報をもとに当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。
3. 実際の業績は記載の見通しとは異なる可能性があり得ますことをご承知おき下さい。
4. 本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。